

成田康昭先生の定年退職にあたって

成田康昭先生は、2015年3月に定年を迎え、立教大学社会学部を退職されました。成田先生は、1997年4月に立教大学社会学部社会学科に教授として着任され、2000年度から2001年度にかけて社会学研究科社会学専攻前期課程主任、2002年度から2004年度までは社会学科長、2006年度からは新設のメディア社会学科に移籍され、2006年度から2007年度にかけてメディア社会学科長として新学科の建設に尽力されました。立教大学着任から18年間にわたり、教育、研究、大学運営に多大な貢献をされました。

成田先生のご専門は、コミュニケーション研究を中心とするもので、つねに理論と実証の双方を着実に踏まえた意欲的な研究に取り組んでこられました。その出発点は、メディアによるコミュニケーションの分析に記号学の成果を適用することであり、1980年代半ばからはICT革命によって急速に変化する現実をまえに、初期にはパソコン通信をめぐる実証的研究を、また2000年以降はインターネットとジャーナリズムの接点に注目しつつ、さまざまな調査プロジェクトを実施されました。先生のご研究は、理論への強い志向と重厚な実証調査に加えて、新しいテクノロジーやメディアと社会との関わりへの絶えざる関心にその特徴がありました。

先生の研究成果は、教育面においても遺憾なく発揮され、「マス・コミュニケーション論」「情報の理論」「情報メディア論」「現代文化論」「記号論」「青年文化論」「メディア・リテラシー論」「情報化社会論」といった多彩な科目を率先して意欲的に展開され、学生たちの知的関心を大いに刺激してきました。なかでも、2000年以降担当されてきた「メディア・コミュニケーション論」は、最新の学問的動向と独創的な知見や問題提起が豊富に披瀝される場として、社会学部の学生たちに大きな刺激と影響を与えたことで知られています。

先生は、大学運営の面でも多大な貢献をされました。2001年度は入学センター副センター長、2008年度から2010年度までの3年間はキャリアセンター部長、2012年から2014年度の3年間は江戸川乱歩記念大衆文化センター長を歴任されました。とりわけキャリアセンターにおいては、女子学生のキャリア形成に関する本格的な意識調査を実施し、外部からキャリア発達理論の専門家を招聘して、教育とキャリア形成を連携する諸施策を推進するなど、現代の大学教育における「キャリア形成」の新しいありかたを確立する多大な努力を払われました。

また、学外においては、日本マス・コミュニケーション学会の理事・編集委員長をはじめとする要職を歴任し、民間放送局の番組審議会委員等を務められました。

これまで先生は、研究・教育の両面において知的好奇心を存分に発揮され、大学運営の面においてもその成果を活用されてこられました。今後とも、ご健康に留意され、ますますご活躍されることを願ってやみません。

2016年3月

社会学部長

松 本 康